

創薬力の向上により国民に最新の医薬品を迅速に届けるための構想会議

2023年12月27日

読売新聞東京本社 南 砂

この会議が目指す課題を検討するにあたり、解決に資すると思われる背景的論点を考えてみる（日本社会と医学・医療の変遷を俯瞰して）

1) 東西冷戦構造の崩壊(1989)と世界主要国の医薬品産業の変化（医薬品産業の国策化、メガファーマへの変革）

2) 日本国内の薬学教育の変化

「医薬分業」の実態を背景にした薬剤師養成6年制への変革。6年制薬学部開始(2006)と4年制薬学部の相対的縮小、薬学研究者の減少、薬学部新設など

3) 医薬品、医療機器の輸入超過問題

2011年3月の東日本大震災を機に医療現場で使用されている薬や医療機器が年間3兆円の輸入超過と判明。背景にある産業造的の問題や規制の問題、医、工、薬学の領域を超えた連携の難しさが浮上。複雑な学術および産業政策的問題

4) 世界保健機関 WHO や英ランセット誌が高く評価した「日本の皆保険制医療」の呪縛

医療を受ける国民、医療提供側をふくめた国民全体の意識変容を図ることはできるか

5) 最先端の医学研究はグローバル化の一途

日本は独自の薬価制度や規制などによって、世界の医薬品産業から魅力のない市場と見なされる実態